



発行所  
徳島市雑賀町 東開21番地 1  
一般財団法人  
**徳島県遺族会**  
TEL (088) 636-3212  
FAX (088) 636-3213  
http://izokukai.jp/  
発行責任者  
坂千代 克彦  
印刷  
グランド印刷(株)

# 新年のご挨拶

一般財団法人徳島県遺族会 会長 **坂千代 克彦**



明けましておめでとございます。  
新年を迎え、ご遺族の皆様におかれましては、健やかに過ごされたこととお慶び申し上げます。

日頃は徳島県遺族会に対しまして、格別のご支援とご協力をいただき、改めまして心より厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、明るい話題としてパリオリンピックやアメリカ大リーグにおいて日本人選手が大活躍をしました。一方、元日の能登半島地震や豪雨などの自然災害により、各地で甚大な被害が数多く発生した一年でもありました。被災された皆様には、改めてお見舞いと一日

も早く平穏な生活に戻られますことをお祈り申し上げます。

さて、本会の事業活動については、ご遺族の皆様のご協力によりまして、靖国神社正式参拝、徳島県戦没者記念館開館十周年行事、徳島県戦没者遺族大会、沖縄「徳島の塔」慰霊祭など、計画どおり無事に行うことができました。

特に、徳島県戦没者遺族大会において、知事、国会議員をはじめとする多数の来賓をお招きし、県内各地から多くの会員にご参加いただき盛会裏に終了することができ、各市町村における追悼式も全地域で挙行していただきました。

県内各地区の役員の方々、会員の皆様のご理解とご協力に改めて敬意を表する次第であります。

また、事業の実施にあたっては、青年部の皆さんが積極的に参画しております。組織の次世代継承に向けてより一層前進したと思っております。

一昨年より、ご遺族の皆様にご理解をいただき、多額の奉賛金を賜りました徳島県護国神社の移転遷座二十周年記念事業もほぼ工事が完了しており、発起人の一人として改めてお礼申し上げます。これから先も安心して御英霊をお祀りできるような、心から念じているところであります。

現在、戦没者遺児の平均年齢は八十四歳になると言われております。

高齡化が進む本会ではありますが、「英霊の顕彰」「遺族の処遇改善」を根幹とし、「組織の継承」「戦没者記念館の活動促進」「次世代への語り継ぎ」を加えた五つの指標のもと、継続して活動を進めて参りたいと思っております。

特に、本年四月に償還期限を迎える特別弔慰金については、日本遺族会を中心に全国の遺族会と連携し、制度の継続・増額に向けて強力に取り組んで参ります。

さらに、我が国の遺族会組織の存続のため、令和六年度から日本遺族会が中心となつて事業をスタートした「平和の語り部事業」についても、全国の遺族会との連携を図りながら取り組みを進めて参ります。

そして、これらの事業展開のためには孫・曾孫世代の規模拡大が急務であり、次代を託す青年部活動の更なる活性化につきまして支援をして参ります。

ご遺族の皆様におかれましては、引き続きのご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

結びに、ご遺族の皆様にとりまして、本年がより良き年でありませうようご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

## 謹賀新年 令和七年元旦

徳島県遺族会

会長 坂千代 克彦  
副会長 上浦 喜代志

尾形 信之  
武原 光普  
稲原 一生  
林順 子  
濱本 子  
山本 子

緒方 和子  
井上 晃子  
坂東 清英  
上田 哲夫  
古林 勢一郎  
赤瀬 敏幸  
神野 武重

緒方 孝幸  
木下 厚子  
佐々木 幸子  
東 孝幸  
谷 孝幸  
田中 孝幸

吉田 恒雄  
正木 隆之  
白川 祐史  
宇山 潔  
大字 晴雄  
大平 文雄

高木 健和  
中道 敏之  
大平 敏之  
中道 敏之

原 裕二  
小原 真智子

理事 局長 小林 真智子  
事務局書記 小原 真智子

監事 局長 小林 真智子  
事務局書記 小原 真智子

徳島県護国神社  
宮司 坂田 敏郎

英霊にこたえる会 徳島県本部  
会長 中西 祐介

徳島県護国神社  
宮司 坂田 敏郎

# 終戦八十年の決意 「平和の語り部」を通じた社会貢献を

一般財団法人日本遺族会会長 水落敏栄



ご遺族の皆様にはお元気で新しい年をお迎えのことと拝察いたします。年頭にあたり、日本遺族会会長として、「平和の語り部」を通して社会に奉仕する決意を表明いたします。

本会は、「二度と戦没者遺族を出さない」という固い決意のもと、七十七年の長きに亘り活動を続けてまいりました。組織の構成は、戦没者の父母、兄弟、姉妹から妻へ、そして遺児から戦後生まれの青年部へと多くの方々のご尽力により繋がれてまいりました。その間一貫して活動の根幹は「英霊の顕彰」戦争の犠牲を忘れさせな

いこと」でありました。

時代は激動の昭和から平成へ、戦後生まれが、社会の半数を占めはじめ、先の大戦の記憶を後

世に語り継ぐ機運が生まれ、各方面で語り部や体験集発刊等がさかんに行われました。しかし、いつしか人々の興味は薄

れ、戦争の記憶は今消えようとしています。本会はこうした状況に大いなる危機感をもち、それ

で草の根的に広がった語り部を確実に次世代へ継承するため全国的な組織化を令和五年度から3カ年計画で始めました。

他方、国も戦争の記憶を風化させないよう令和6年度より「平和の語り部事業」を新設し、本会が応募し、採択されました。

今回、来年度予算要望の最重点項目、「国は戦没者を忘れない」とする特別弔慰金の継続・増額、何より「平和の語り部事

業」の予算が大幅増額で計上されたことは、本会の長年の活動が評価された証左であります。

この上は、社会のニーズに因應するため、多くの語り部活動者の育成が急務です。地域において個人で活動する語り部を掘り起こすと共に、体験者である遺族と次世代青年部が共に記憶の伝承に取り組んでまいりましょう。

そして、最終年となる遺児の慰霊友好親善事業（洋上慰霊）や遺骨収集、遺留品返還、慰霊碑の維持管理、あらゆる活動を通して、平和を語り継ぎ、意識を醸成し、より多くの語り部活動者を育成しましょう。

終戦八十年、遺族に課せられた社会的責務「平和の語り部」を通して、社会に奉仕し、平和な社会の構築を担う団体として、戦後百年まで活動してまいりましょう。

## 令和六年度徳島県護国神社例大祭並びに 移転遷座二十周年記念事業竣工奉告祭が 斎行される

令和六年十一月二日

(土) 県内各地よりご遺族約四百名が参列し、徳島県護国神社例大祭並びに移転遷座二十周年記念事業竣工奉告祭が厳粛かつ盛大裡に斎行された。祭典は、高木謙至徳島県隊友会会長の開始の言葉に始まり、参列者全員



による国歌斉唱の後に、坂田敏郎宮司が祝詞を奏上、献幣使により祭詞が奏上された。

続いて、大祭委員長の阿部和英護国神社奉賛会会長、谷本悦久徳島県政策監（徳島県知事代理）、坂千代克彦徳島県遺族会会長から祭文が奏上された。

また、今年度は移転遷座二十周年記念事業竣工奉告祭として天水連による奉納阿波踊りが行われた。

その後、県選出の国会議員をはじめ、行政・議会など関係各方面から多くの来賓をお迎えし、県内各地の遺族代表の方々とともに玉串を捧げて拝礼、ご祭神に対して感謝と慰霊の誠を捧げ世界の恒久平和を祈念した。



# 日本遺族会「中国・四国ブロック会議」高知市で開催

令和六年十月六日(日)から七日(月)の日程で、高知県高知市において日本遺族会の第四ブロック(中国・四国の各県)会議が開催され、本会からは濱副会長兼女性部長、山本副会長兼青年部長が出席した。

開会行事では、国歌斉唱、ご英霊に対する感謝の黙祷、高知県遺族会大石会長、日本遺族会水落会長による挨拶の後、来賓として濱田高知県知事、加藤高知県議会議長から



挨拶をいただいた。

会議では、まず日本遺族会の細貝洋子広報室長から「戦後八十年に向けた組織継承三カ年計画」に関する進捗状況、令和七年度平和の語り部事業の展開に関する説明があった。

続いて、各県共通の課題である「会員の高齢化」、「次世代への継承(青年部の組織化)」に関連する「慰霊碑の維持管理」、「青年部の組織化」、「語り部の育成」などの討議が行われ、各県が厳しい運営状況であることが改めて分かった。

これらの状況を受けて、水落会長は「五年後の遺族会を考えた時、今、組織の継承に向けて動かないと大変な状況になる」と思っている。組織継承には、青年部の組織強化が必須である。また、来年度予算の増額を要望している平和の語り部事業は、講話だけでなく、追悼式や慰霊碑の清掃活動など、語り部事業の対象になる行事はたくさんあるので、各地域で積極的に取り組んでほしい。」との挨拶があった。

# 第七十九回 全国戦没者遺族大会の開催



令和六年十二月十日(火) 自由民主党会館(東京都・自民党本部)において、全国の遺族代表者・約三百名が参集し、第七十九回全国戦没者遺族大会が開催され、本会からは坂千代会長、上浦副会長、山本副会長が参加しました。

大会では、実現を期する重点事項として、「特別弔慰金の継続・増額」、「平和の語り部事業の拡充強化」等について決議されました。

また、大会終了後に本会役員は衆参の議員会館に赴き、県選出国會議員等に陳情活動を行いました。今後も要望事項の実現に向け、全国の遺族会と連携しながら運動を継続して参ります。



## 語り部事業のご案内 (2か月に1回、奇数月に開催)

### ●第97回 令和7年1月11日(土) 13:30 ~ 14:30 戦没者記念館

「阿南市遺族連合会の取り組み、今、私に出来ること」 武田 光普 氏 (阿南市)

武田様は、県下最年少で阿南市遺族連合会会長に就任(現在56歳)。阿南市遺族連合会及び青年部活動に尽力。大叔父が戦没者。曾祖母は地域の国防婦人会長として地域を奔走。しかし、送り出した息子は戦死。生前、曾祖母が私に伝えた言葉とは。

### ●第98回 令和7年3月8日(土) 13:30 ~ 14:30 戦没者記念館

「大伯父の戦歴をたどり、これからの時代の平和を考える」 正治 真紀 氏 (板野郡藍住町)

正治様は、遺族会青年部に入会したことをきっかけに、ビルマで戦死した大伯父のことについて各方面から資料を取り寄せ、その足跡をたどりました。また、親戚縁者との関係が希薄になりがちな現在、「このままでは一族の歴史を知る若い世代が途絶えるのでは」と危機感を持たれています。今回は、これからの時代の平和について、中学生の息子さんと話し合った体験等を語っていただきます。

## 徳島県戦没者記念館開館10周年行事（第95回語り部事業）

### “声なき声”と対話する場

—「徳島県戦没者記念館 あしたへ」に期待するもの—

講師：郷土史家 松下師 —（まつした のりひと）氏



#### I. はじめに

「徳島県戦没者記念館 あしたへ」の開館10周年、おめでとうございます。私も「記念館」のオープンに関わった者の一人ですが、私が関係するのは最後の8ヵ月ぐらいのことで、それ以前については、70周年記念誌の『あしたへ II』で確認してみると、「記念館」の建設構想は平成22年に始まり、以降、東日本大震災による休止期間を経て、24年から本格化したようです。当初は、26年春の開館予定でしたが、後ほど説明する事情があり、秋（10月5日）へと半年間遅くなった経緯があります。

#### II. 素晴らしいコンセプト

さて、私が改めて記念館の現状を振り返ってみると、まずは「空間演出としては最高」と申し上げたいと思います。徳島県護国神社の広大かつ静謐なエリアがあり、その南側に護国神社の社殿が立地しています。更に南側の玉垣の際には、「比島



玉垣の前に並ぶ記念碑・慰霊碑

戦没者の碑」「硫黄島戦没者之碑」「ソロモン群島戦没者慰霊碑」、そして蔵本にありました郷土連隊「歩兵第四十三聯隊戦没者慰霊之碑」など、戦没者を追悼する数々の記念碑・顕彰碑があります。国命に従い、家族のため、故郷のために、戦地に斃れた人々の史実を語る石碑の列です。社殿裏手には、旧海軍の主計科士官であった中曾根康弘・元総理が揮毫した「海軍戦没者慰霊碑」があり、その隣には「海軍甲種飛行予科練習生 殉国の若鷹慰霊之碑」があります。また近くには、「靖国の桜」などが植樹されており、しみじみと戦争の歴史を振り返るには良い空間だと思っています。

そして北側、工業技術センター側には、出征する兵士（後に戦没者となる）を見送る「家族の像」と「記念館」があります。「家族の像」につきましても、「記念館」オープン後、平成29年12月に完成したのですが、「息子よ！」という思いをもったお祖父さん（兵士からすれば父）・お祖母さん（同母）、そして夫を案じる妻、まだ幼い男の子と赤ちゃん（赤ちゃんはきつと女の子です）。当時は、現実にごうした場面が多々あり、それを象徴する誠に遺族会らしいモニュメントになっています。



家族の像（左下の碑文を担当）

私は、「記念館」をお手伝いしてした経緯から、碑文を書かせていただきました。私なりに思いを込めた内容です。私は直接の戦没者遺族ではありませんが、遺族の思いと、声なき戦没者の気持ちを汲み取って、文末を「君が遺してくれたものを受け継ぎ、今も家族は故郷とともに

にあります」としました。

護国神社の鳥居をくぐり、数々の慰霊碑と共に社殿があり、そして「家族の像」から「記念館」へ至るまでの空間は、戦争の歴史を顧み、戦没者を慰霊する最高の空間になっています。「そもそものコンセプトがよかった！」という言葉につきます。

#### III. 記念館の展示パネル秘話

そして一番奥の建物が記念館「あしたへ」になります。館内も空間利用のコンセプトが素晴らしくて、8000枚を超える戦没者の遺影を中心に、24枚の解説パネルと、時代の証拠となる実物資料が取り囲んでいます。この内、私が開館前の半年間で担当したのが、主に解説パネルになります。



記念館の中央は、8000枚を超える戦没者の肖像

当時、私は松茂町歴史民俗資料館の学芸員をしておりましたが、得意とする専門分野は江戸時代の農村史です。決して戦争史家ではありません。当時の県遺族会の増矢稔会長さんの「ご親戚の田んぼの隣に住んでいた」というだけの縁で、突然、しかもオープン直前に声がかかりました。最初は「専門家でない」「準備時間が余りに短い」という理由で断ったのですが、増矢さんから「専門家は考えが偏る。専門家から距離があるぐらいがちょうどいい」「オープンを半年延ばして秋にする」と説得され、最後は引き受けました。そこからは、「歴史の叙述というのは危うくて、評価は評価者の目線で動く」と自分を戒め、つとめて当時の公文書や、写真、図版、統計資料等を掲載した、客観性の高い解説パネル制作を行いました。

そしてパネルの原案ができる、遺族会内に立ち上げた検討チームで、多方面から議論を重ねました。案の定、人が代わると、目線が代わると、評価は様々になりますが、最後は「これは結論ではない、考える始発点である」という意図でまとめ上げました。印象的な例を2つあげると、①は戦争の呼称です。今日の教科書では「太平洋戦争」と呼びますが、当時、政府は「大東亜戦争」と命名しました。教科書は当時の政策への反省を踏まえて「太平洋戦争」なの



北側パネルは「近代日本の歩みと戦争の歴史」を解説



南側パネルは「近代・戦争と徳島」「戦後日本の復興」等を解説

ですが、当時のままではありません。戦争史の専門家の中にも、満州事変以来の中国大陆での戦争が含まれていないと批判する声があり、「15年戦争」「アジア・太平洋戦争」と呼ぶ人もいます。私は議論をまとめるにあたって、呼称をめぐる経緯を掲載し、見学者に考えてもらうことにしました。また、②は日本国憲法は「平和憲法」なのかという点です。私は何気なしに「平和憲法としての日本国憲法」と書いたのですが、「憲法9条を読んだ後の人々が、平和憲法と評したのではないか。最初から平和憲法の意図はあったのか。」と問われ、表現を改めました。やはり思い込みは恐ろしいもので、憲法発布後、戦後の平和主義が発展する中で平和憲法という呼び方が定着したと解釈すべきです。

#### IV. 「声なき声」との対話

慰霊の場、鎮魂の空間として素晴らしい記念館が、開館から10年を迎えました。

私は、この場で目を瞑り、声を発することができない戦没者と、戦争の歴史について、心の中で会話を交わして欲しいと思います。この場を切っ掛け（始発点）とし

て、来館者に考えて欲しいのです。

私個人としては、これだけの遺影を前にすると、当時の政府要人（東條英機首相、近衛文麿首相、等）には強い不満が募ります。ちなみに、旧制徳島中学校（現・城南高校）の卒業生で、最後の陸軍大臣となった阿南惟幾には、その責任の果たし方（8月14日、天皇の御聖断後に自決）の適否もさることながら、徳島ゆかりの人物として興味があります。

他方で、評価は様々ですが、戦後、サンフランシスコ講和条約を推進し、日米安全保障条約を締結した吉田茂首相には、このパネル制作を通じて、彼の決断力・指導力に感服しています。つくづく、政治家の評価とは結果次第だと思ふところでは。

最後に、開館から10年、途中、コロナ禍がありました。が、「語り部事業」を継続するなど、記念館は生き活きた活動が続けています。コンセプトも、活動も、素晴らしいものがあります。これまでも、これからも、誰もがこの場で考え、自国の歴史に興味を持ってもらえるよう、私も郷土史家の一人として歴史を学ぶの“面白さ”と“必要性”を伝えていきたいと思っています。

#### 語り部事業講演要旨

##### ●第96回語り部事業 11月9日（土）

##### 「有事の日本で活躍した曾祖父の生涯をたどる」

小松島市 松本 雄介氏（18）高校3年生



私は小さい頃から歴史好きで、昔の話聞くのが好きでした。そんな時、祖父から聞かされた曾祖父の戦死の事実。当時を詳しく知る使命のようなものを感じ、祖父とともに辿ってみることにしま

した。

仏壇の裏から古い写真が出てきましたが、祖父は古すぎて殆どわかりませんでした。

そこで、地元の元教師の埴淵さん（当時96歳）に話を聞くことにしました。

郷土史を調べると曾祖父の名前があり、祖父が思い込んでいた広島ではなく、長崎の海兵団に所属していたことがわかりました。

母が佐世保海軍墓地保存会に問い合わせると、戦没者名簿に曾祖父の名前「竹治賀折」があることがわかりました。また、県庁や厚労省に問合せ、軍歴を送ってもらいました。

曾祖父は明治43年に農家の長男として生まれました。

当時は、戦時下で活躍する女性団体として「国防婦人会」がありました。（NHK資料）

兵士の見送りや慰問など、会員の主婦たちは子供を戦場に送り出し、戦死の知らせにも涙を流さなかったといひます。しかし、本当は葛藤を抱えながら生きた普通の女性達でした。その団体は曾祖父が育ったこの地域にもありました。（写真が見つかったのです）

これは15歳頃の写真で、海軍志願兵であったのだろうと思われま

す。海軍に志願した後、20歳で徴兵検査を受け、この時代は兵役が満たされていたため、補充兵役となり、地元で変わらぬ生活ができたと思われま

す。世界恐慌の中、曾祖父は24歳で結婚しました。手先が器用で常に新しいことに挑戦しており、村のトップと共同で初めて村に発動機を取り入れました。また、新たに葉タバコ生産にも挑戦しました。長女・次女に続き長男として私の祖父が誕生しました。

太平洋戦争が始まった頃、地元での日常生活は変わり

ませんでした。しかし、戦況が悪くなると補充兵にも出番が回ってきます。曾祖父が33歳の時、赤紙が届き、家族で写真を撮りました。

出征時、駅で離れない息子に「これをあげるから家でおってくれ」と、3円だけ渡されたら祖父が今回初めて語ってくれました。軍歴によると、昭和18年に陸軍として召集され、その日のうちに海軍となりました。6日後に館山砲術学校に入校し卒業時に1等水兵となり、部隊に入って戦地に向かいました。

戦地へ向かう前に友人にハガキを送り、友人は家族に届けてくれたようですが、祖父は今はないと言っていました。それが、昨年11月にずっと開けていなかった引き出しから見つかりました。「入隊後、毎日元気に軍務に励んでいるから、安心してくださ。留守中はいろいろお世話になりますが、特に子供をよろしく願ひいたします。」などが書かれていました。

今回調査のために佐世保に行くと、海軍墓地保存会の岡林さんが墓地や針尾送信所まで案内してくれました。曾祖父がどうやって戦地に行ったのか岡林さんに聞くと、竹一船団（日本軍の護送船団）で行った可能性が高いとのことでした。

ビアク島は激戦地で、物資は届かず苦しい戦いであったと言われていま

す。曾祖父は昭和19年5月にこの地上陸し、日本軍が苦勞して作った飛行場を簡単に取られないように、陸軍と協力して105防空隊として活躍しました。しかし、6月7日に帰らぬ人となりました。

今回、新たに曾祖父の写真と「賀折37歳」のメモが当時の両親の写真と共に見つかりました。

戦死した時の年齢が満34歳、数えでも35歳であることから、このメモの37歳は生きて帰ってくる目標だったのかもしれません。

太平洋戦争の日本人戦没者数は、軍人・軍属で230万人、そのうち、徳島県出身の戦没者数は2万9849人、佐世保鎮守府より徳島県出身の戦没者数は6707人で、そのうちの軍人に曾祖父の名前がありました。

今回、ご協力いただいた埴淵さんは、18歳だった時に志願して久留米陸軍予備士官学校に入校し、5日目に終戦となりました。そして、戦時下の教育について、次のように語ってくれました。「『20歳がきたら兵隊に行く、どうせ兵隊に行くんなら、もっと早くから志願して

行く。」そういう国の中で賀折さんも育ってきたから、20歳にならなくても、20歳に先んじて兵隊になつてくるわけ、それは、教育がそうした。日本の国の教育が。だから教育というのは非常に恐ろしい!」

当時の人々が苦しい生活の中で戦争に対する「士気」を高めていったかについては、戦時下の教育に加え、婦人会等の銃後の支えがあり、本音が言えない世の中であつたことがわかりました。

また、曾祖父に召集令状が届いて以後の生活も想像できませんでしたが、出征後も家族を想い父親としての責任を全うできない辛さと闘いながら、前向きに努力を続けた曾祖父の姿を思うと、勇ましくもあり誇らしい気持ちになりました。もっと長生きして、次の時代まで生きてもらいたかったと無念さが残ります。今後は、曾祖父の分まで長生きして後世に伝えることが私の使命だと感じています。

以上が、2月の歴史フォーラムで発表させてもらった内容になり、以下は、その後に学んだこととなります。

私は慰霊碑の管理についても関心があつて、その後についていくつか現地を訪ねました。

慰霊碑は県内で約150基、全国で1万6千基以上あるようですが、高齢化などで管理が行き届かないのが多いとのことです。眉山の西部公園にある忠霊塔をはじめ県内には高台に建立されたものが多数あり、高齢化で階段を登って、そこまで行くことができない遺族も増えているようです。また、眉山公園内のバゴダ平和記念塔は、老朽化による雨漏りで建替えるための寄付金を募っていると聞きました。徳島中央公園内の西部ニューギニア戦没者慰霊碑は、管理する遺族の高齢化により、護国神社への移設を望んでいるようです。

私は、これらを平坦な場所に統合移設することが望ま

しいと思います。近所でなければ行けないので、そのままにしてほしいという意見もあるようですが、ある程度の統合も必要ではないでしょうか。そして今後は民間だけに任せるのではなく、国が責任を持って維持管理をしてもらいたいと思います。

最後に、8月15日に祖父の従弟の福良さんの記事が載っていました。

5歳の時に徳島大空襲に会い、母と姉妹2人とともに眉山に逃れ、夜が明けて戻ると家があつた場所は一面焼け野原、電柱は立ったまま燃えており、川の中で大勢の人が亡くなつていたそうです。燻る火と煙の中、母の実家の勝浦まで裸足で歩いたとのことで、想像しただけでも恐ろしいです。その後も幾度となく苦難を乗り越えました。父が生きて帰ってくることを願って。しかし、その願いは叶いませんでした。終戦から4年ほど経って戦死を知らせる告知書が届いたのです。

私は今回、福良さんにお会いして、その時のお話を直接聞かせてもらいました。「もっと早く戦争をやめていれば、父は死ぬことはなかった!」どれだけ多くの遺族の方がそう思ったでしょう。「空襲被害も原爆を落とされることもなかったはずだ!兵士も国民も不幸のどん底に落とす戦争は二度と起こしてはならない!」全くその通りです。

そして、空襲で写真の一つも残っていないという話を聴き、田舎と都会の違いを知りました。今回、私は、母の実家で多くの古い写真があつたから、このようなことが出来ました。その写真の中に、たった1枚ですが福良さんにとって大切なお父さんの写真があり、お渡しできたことが本当に良かったと思っています。

この度は、貴重な機会を与えていただき、ありがとうございました。

第五十七回

沖繩「徳島の塔」慰霊巡拝

令和六年十一月二十三日(土)から二十四日(日)

の日程で、第五十七回目となる沖繩への慰霊巡拝が実施されました。

昨年に引き続き、青年部活動の一環として齋行され、本会から坂千代克彦会長、松本努青年部副部長のほか青年部員二名、会員等四名が参加し



翌二十四日は、午前九時三十分から糸満市摩文仁「徳島の塔」前広場において慰霊祭を斎行しました。祭典には、沖繩県庁、沖繩県議会、糸満市、沖繩県平和祈念財団、沖繩県遺族連合会、沖繩徳島県人会の皆様にも御臨席いただき、二十四名で厳粛に執り行われました。祭典は参列者全員の黙禱に始まり、沖繩県観音寺元山善弘住職の読経と

ました。また、徳島県庁からは蛸原淑文保健福祉部副部長、久我真理子係長が参加され、徳島県から総勢十名が参加しました。

二十三日午後には那覇空港に到着後、まず沖繩県護国神社へ正式参拝を行い、御霊の御安泰と感謝を捧げました。

続き、祭主坂千代会長による祭文の奏上、その後、徳島県知事、徳島県議会議長の慰霊の言葉が述べられました。続いて、参列者一人ひとりが焼香を行い、最後に坂千代会長の謝辞をもって祭典は終了しました。

祭典終了後には、参列者全員で平和の礎、沖繩県平和祈念資料館を巡つて御英霊を偲ぶとともに心から感謝の誠を捧げました。

その後、南風原町にある沖繩陸軍病院がおかれた南風原壕群二十号の視察を行い、往時の厳しい戦闘と人々の決意を学ぶとともに、平和への誓いを新たに致しました。

来年度も、沖繩での慰霊祭は青年部活動として齋行し、あわせて県内ご遺族にできるだけ多く御参加いただけるよう計画をしたいと考えております。

日本遺族会女性部結成七十周年記念  
「平和の語り部研修会」の開催



令和六年十二月十一日(水)～十二日(木)の二日間、九段会館テラス等において、日本遺族会女性部結成七十周年記念「平和の語り部研修会」が開催された。  
本会からは、濱順子女性部長、栗飯原富子女性部副部長、松本優子徳島市女性部副部長(青年部員)が参加した。  
研修会は、靖國神社奉告参拝の後に、本会の濱女性部長による語り部活動の取組み等についての講話からスタートし、そ



の後、各県女性部員から提出された自己史に関する座談会や意見発表など活発な議論を行い、参加者にとって大変有意義な会議となった。

「洋上慰霊 (令和七年度実施予定)」の御案内

申込期限迫る!

日本遺族会が令和7年度に実施予定の「洋上慰霊」について、申込期限が迫っております。計画概要は次のとおりですので、参加を希望される方は事務局まで御連絡ください。

※この事業は実施予定であり、厚生労働省の補助金交付団体に選定(令和7年3月頃)されてから正式決定となります。

◎ 実施計画の概要

1 参加資格

父等を海域で亡くされた戦没者の遺児で前年度の本事業に参加していない者。(ただし、前年度参加者であっても付添者で青年部が同行する場合は参加を認める。また、実施地域は洋上以外にフィリピン諸島を含んでおり、定員に満たない場合は同地域の関係者や過去の参加者を認める場合がある)なお、申込多数の場合は選考となる。

2 参加費

- ・10万円(但し、燃料費高騰などで値上げする場合があります)  
※過去に同事業に参加された方は、協力を別途いただく

3 実施時期・期間

- ・令和7年6月1日(日)～6月11日(水)
- ・11日間 ※詳細は、洋上慰霊日程(案)のとおり

4 募集人員

- ・各支部  
原則7名程度 計 約300名  
※各支部参加者の中から世話人(1名)を推薦

5 集合場所及び解散場所

- ・集合、解散の場所は、兵庫県神戸市の予定
- ・集合、解散の場所までの交通機関等の手配は各自で行う

6 申込締切日

- ・令和7年1月31日(金)

7 問合せ・お申込み

- ・徳島県遺族会事務局まで  
TEL 088-636-3212

洋上慰霊日程(案)

日次	月 日	発着地等	スケジュール
1日目	6月1日(日)	神戸(日本)	午後:受付後、船内へ 結団式及び渡航手続き説明会 17時頃出港予定
2日目	6月2日(月)	終日航海	午前:講演 水落会長 ①午後:九州沖洋上慰霊祭
3日目	6月3日(火)	終日航海	②午前:東シナ海洋上慰霊祭 午後:講演 平和の語り部
4日目	6月4日(水)	終日航海	③午前:台湾海峡洋上慰霊祭 午後:講演 平和の語り部、事例等
5日目	6月5日(木)	終日航海	④午前:台湾・バシー海峡洋上慰霊祭 ⑤午後:ルソン島西方沖洋上慰霊祭
6日目	6月6日(金)	午前 マニラ 入 夕刻 マニラ 出	午前:マニラ入港:9時頃 全戦没者追悼式 午後:懇親会:友好親善(船内にて)
7日目	6月7日(土)	終日航海	⑥午前:シブヤン海洋上慰霊祭 午後:講演 水落会長
8日目	6月8日(日)	終日航海	⑦午前:レイテ島東方沖洋上慰霊祭 午後:講演 語り部座談会
9日目	6月9日(月)	終日航海	⑧午前:太平洋沖洋上慰霊祭 午後:講演 語り部:実演
10日目	6月10日(火)	終日航海	⑨午前:南薩諸島沖洋上慰霊 午後:入国説明会、講演 船長 夕刻:解団式:懇親会
11日目	6月11日(水)	神戸(日本)	9時頃入港予定、下船

※日程(案)は後日、内容を変更する場合があります。

地方だより

令和6年度 市町村戦没者慰霊祭・追悼式の開催 (9月27日～11月16日まで)

令和6年度の戦没者慰霊祭・追悼式が各地域において執り行われ、当日は県遺族会役員が参列しました。



勝浦町戦没者追悼式：9月27日



石井町戦没者追悼式：10月8日



神山町戦没者追悼式：10月23日



北島町戦没者追悼式：11月9日



藍住町戦没者追悼式：11月11日



吉野川市戦没者追悼式：11月16日



東みよし町立三加茂中学校二年生と先生の総勢七十名が、十月十八日(金)に平和学習の一環として徳島県戦没者記念館に来館しました。  
今回の来館は、五月末に訪れた沖縄への修学旅行における平和学習の振り返りとして、令和四年度に来館された先生が企画をされたものです。  
生徒たちは、参集殿において演習部長から紙芝居と「沖縄戦に関する講話」を聴いた後、戦没者記念館の見学を行い、約八千二百名の戦没者の写真を見て、中に自

東みよし町立三加茂中学校が

校外学習で記念館来館



分たちと同年代の若さで亡くなった人がいることに驚いていました。  
また、先の大戦の経緯、徳島の戦跡のパネル、遺品等を真剣な眼差しで見つめる生徒も見受けられました。  
生徒の皆さんには、今回の来館を契機として「平和の尊さ」と「命の大切さ」についての学習を今後も継続していただければと思います。

戦没者記念館だより

— 写真展示数 8,199 柱 (R6.12.20 現在) —

▶ 来館者のお声

- 私は退職してから日本全国の戦跡、護国神社をまわっています。戦争で犠牲になられた先人に感謝し、「戦争は二度とあってはならない」「私達は次世代に受け継いでいかなければいけない」と思っています。当館の写真、展示物を見ると心が痛みます。徳島に来た時はまた来たいと思います。過去を忘れては前に進めません！（神奈川県：60代・男性）
- 沖縄、広島に行った際に戦争について詳しく知りました。今回、記念館を訪れたことで、徳島県でも多くの方が亡くなったことが分かりました。徳島の戦没者記念館のことを家族にも話したいと思います。（宮城県：30代・女性）
- 徳島城公園の父の像横に書かれていたのを見て、記念館の存在を初めて知りました。数年前に広島原爆ドームを訪れ、戦争について何も知らないことに気付き、以来、太平洋戦争について勉強しています。本県でも多くの方が出兵し、勇ましく戦われ戦死されたことを身近に感じる事ができ、貴重な時間でした。ありがとうございました。（県内：50代・男性）
- 私の父の兄の写真がありました。父に似ています。父は足が悪くなっても必ずお墓参りに歩いて行きます。頭が下がります。今ある私達のくらしは、先の大戦で亡くなられた方の上にあるのだと思います。感謝の気持ちを持って生きていかなければならないと思います。（県内：50代・女性）
- 祖父の兄の写真があることを知り訪れた。実際に顔を見て本当に良かった。当時日本のために戦ってくださった方々の頑張り、勇気があったからこそ今の自分があり、平和な生活があることを再認識する事が出来た。昨年祖父は亡くなったが、身内に戦争で亡くなった人がいるということを後世に伝えていきたい。（県内：20代・女性）

お慶び

秋の叙勲 旭日単光章

令和6年11月3日 受章



徳島県遺族会 副会長  
徳島市遺族連合会 会長

上 浦 喜代志 氏

厚生労働大臣表彰

令和6年12月9日 受賞



徳島県遺族会 評議員  
三好遺族連合会 理事

西 内 重 文 氏



徳島県遺族会 理事  
那賀町遺族会連合会 会長

田 中 恒 弘 氏



徳島県遺族会 副会長・女性部長  
海部郡遺族連合会 理事・女性部長

濱 順 子 氏

多年にわたり遺族会の発展と、会員の福祉の向上にご貢献をいただきました。心よりお慶びとお礼を申し上げます。

徳島県遺族会 青年部メンバー募集

戦没者とその時代を学び、平和について一緒に考えましょう

徳島県遺族会は、昭和の大戦で最愛の肉親を失った悲しみを乗り越え、悲惨な戦争を繰り返さないことを固く誓い、昭和26（1951）年の創立以来、一貫して平和を求めて活動を続けています。

今後も戦没者を敬い、史実を語り継ぎ、平和の希求を後世に繋いでいくため、戦没者の孫・ひ孫の世代を中心に「青年部」を発足しています。さらに活動の輪を拡げていくため、メンバーを募集します。

直接のご遺族でなくても参加可能です。

青年部員の声

- 戦死した祖父の戦跡を始めて知りました。どんなに辛い気持ちで亡くなったのかと思います。祖父のお陰で今の自分たちがいられると感謝の気持ちで一杯です。（40代女性）
- 戦争は絶対に起こしてはならないと改めて思います。一度始まると終わらせるのは難しい。子どもたちに伝えて行きたいと思います。（40代男性）

青年部への登録方法

- ※登録は無料です。随時、各種行事の案内が届きます。
- ※参加してみたい行事や活動に無理のない範囲で気軽にご参加ください。
- ※右記のQRコードを読み取っていただくと、ホームページで概要がわかります。

活動内容

- ※全国戦没者追悼式、沖縄「徳島の塔」慰霊祭への参画、参列
- ※語り部事業、小中学生への平和学習、研修会への参加
- ※他県遺族会との交流会、徳島県護国神社祭事（例大祭）への参列など

お問合せは、お気軽に徳島県遺族会事務局まで ☎ 088-636-3212



青年部  
「平和の語り部」  
研修会の開催

青年部「平和の語り部」研修会を十二月二十一日(土)にザ・グランドパレス徳島で開催しました。

研修会は、坂千代会長、山本青年部長の挨拶の後、講師として徳島県隊友会 森聡子氏に「硫黄島の戦没者遺骨収集に参加して」と題して講演していただきました。

森さんからは、現地活動で見て感じた貴重な体験をお聞きするとともに、意見交換も活発に行われ、参加者にとって大変有意義な研修会となりました。

今後も、組織の継承に向けて青年部世代への研修会などを実施します。



青年部  
「父の像」清掃活動

十月二十七日(日)、午前中にあつた例大祭の奉仕活動の後に、徳島中央公園に建立されている「父の像」の清掃活動を青年部役員、事務局により実施しました。

今年度は、降雨により予定していた清掃が二回延期になりましたが、今回は汗が出るくらい陽気に恵まれ、父の像の洗浄・雑草や落ち葉の除去を実施しました。公園には休日のため多くの家族連れが訪れていますが、綺麗になった父の像を見て清々しい気持ちになったのではないかと思います。

今後も、御英霊に感謝し、清掃活動を継続していくので青年部の皆さんの御協力をお願いします。



百歳のお慶び

佐藤 豊子さん (徳島市)



令和6年11月22日に佐藤豊子さん(徳島市)が百歳を迎えられました。徳島県遺族会会長からお祝状と記念品、勝占地区遺族

会からはお祝い金をお贈りしました。

佐藤さんは7人兄弟の長女として川内町に生まれました。夫とは21歳で結婚、二人娘さんを育てました。夫はビルマ(現ミャンマー)で肩を負傷し、傷痍軍人として帰還しました。長い看病の結果、夫を看取り、その後、夫の残した食堂を娘と経営していました。

若い頃は、遺族会役員として地域の方々と交流をされており、ニューヨークやハワイ、国内の各所に旅行に行ったことが良い思い出にいられているようです。

現在は、車椅子の生活となりましたが、孫4人、曾孫6人に恵まれ穏やかな生活を送っておられます。

日課は、朝食のコーヒーとパン、新聞を隅々まで読むことだそうです。

これからもお元気で過ごされますようご祈念申し上げます。

勝占地区遺族会会長 岩内 利信

神谷 茂美さん (小松島市)



小松島市横須町の神谷茂美さんが令和6年11月4日に百歳のお誕生日を迎えられました。徳島県遺族会

からお祝状と記念品、小松島市遺族連合会からお祝い金を贈らせていただきました。神谷さんは7人兄妹の次女としてお生まれになりました。

地元の小松島で育ち、30代から90歳頃まで食堂を切り盛りされておりました。

現在は娘様の力をお借りしながら、元気に自宅で生活されております。明るく信心深い性格の神谷さんの日課は、庭のお花の手入れと毎朝仏壇に手を合わせ、「今日も一日元気に過ごさせてください」とご先祖様に拝むことだそうです。そして、「何でも素直が一番」と笑顔でお話ししてくださいました。いつまでもお元気で過ごされますよう心よりご祈念申し上げます。

小松島地区遺族会会長 立川 邦男

山川 ヨネ子さん (阿南市)



令和6年9月26日、山川ヨネ子さんが百歳のお誕生日を迎えられました。

徳島県遺族会会長よりお

預かりしたお祝状と記念品を贈呈しました。

ヨネ子さんは、ご家族と一緒に、自宅で楽しく過ごされており、大変お元気です。明るく、料理以外のことは自分でこなすヨネ子さん。ご家族との食事をととても楽しんでおられるようです。

デイサービスに通うことを楽しみにしており、同じ曜日に通う友人や、明るく元気な介護スタッフと一緒にたくさんおしゃべりし、笑いながら過ごされていると聞きました。

ヨネ子さんの元気で明るい姿は、ご家族の支えがあってこそと思います。

これからも元気な笑顔をたくさん見せてください。

阿南市遺族連合会会長 武田 光普

令和6年度慰霊巡拝等派遣費補助金(平和の語り部事業)

## 徳島県戦没者記念館 第18回特別企画展

# 特攻隊員の姿と心 ～知覧特攻平和会館パネル展～

入場  
無料

知覧特攻平和会館では、大戦末期の沖縄戦において、航空特攻作戦により散華された陸軍特別攻撃隊員の遺影や遺書、遺品等が展示されています。

航空特攻とは、主として爆弾を装着した航空機にパイロットが搭乗したまま、敵の艦船に体当たりする「必死」の作戦です。亡くなった特攻隊員は17歳から32歳、平均年齢が21.6歳の若者でした。今回は、「十死零生」の空に飛び立った特攻隊員たちの姿、言葉を紹介することにより、改めて戦争と平和について考える機会としていただくため、特別企画展を開催します。



写真提供：知覧特攻平和会館

開催期間

令和7年

2/1(土) ▶ 2/28(金)

平日/9:00~16:30 土・日・祝日/10:00~16:30

場所

徳島県戦没者記念館 あしたへ

〒770-8021 徳島市雑賀町東開21-1  
電話 088-636-3212 FAX 088-636-3213 <http://izokukai.jp>

### 展示内容

- 写真パネル(知覧特攻平和会館所蔵)
- 書籍(戦史の記録書籍)
- 映像(DVD) など



主催 / 徳島県  
一般財団法人 徳島県遺族会  
徳島県戦没者記念館奉賛会

協力 / 知覧特攻平和会館

# 「春の靖国神社参拝団・千羽づる奉納旅行」の実施について

今年度も春の靖国神社参拝団を募集します。  
 昨年までは、1泊2日でしたが、今回は「千羽づる奉納」や「草津温泉でのんびり宿泊」等のコースを加え、2泊3日の行程を予定しております。  
 多数のご参加をお待ちしております。

## 1 実施予定日

令和7年3月25日(火)～27日(木)

## 2 主な行先

靖国神社正式参拝、東京都戦没者霊苑・群馬県護国神社(千羽づる奉納)、世界遺産富岡製糸場、草津温泉 など

## 3 旅行代金

113,000円  
 (1日目:2名1室ツインルーム利用、2日目:4名1室和室利用)  
 ※シングルルーム等を希望する場合は、追加料金が必要

## 4 募集人員

40名(最少催行人員25名)

## 5 募集締切

令和7年1月24日(金)  
 ※ただし、満員になり次第に締切とします。

## 6 行程(予定)

日	月	曜	行	程
1	3/25	(火)	出発 徳島空港 9:00 → JAL454 → 羽田空港 10:10/10:45 記念撮影後、ご参拝 靖国神社(昇殿参拝・昼食) 11:30 千羽づる奉納 東京都戦没者霊苑 13:50 14:10 15:10 東京のどらの名所を車窓よりご見学 上野公園、隅田川沿い、千鳥ヶ淵、皇居外苑など ホテル着(懇親会・泊) 17:00頃	◎宿泊施設:「KKRホテル東京」 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1 Tel:03-3287-2921
2	3/26	(水)	出発 ホテル 8:30 → 一ツ橋IC → 休憩 9:35/9:50 → 高坂SA → 藤岡IC → 千羽づる奉納 群馬県護国神社 10:40 → 11:40 富岡市内(昼食)・・・世界遺産・富岡製糸場(専門の解説員がご案内) 12:15 13:00 13:10 14:30 伝統的な湯もみショーと、町のシンボル湯畑を 草津温泉 熱の湯&湯畑ご散策 草津温泉(泊) 16:15 17:15 17:20	◎宿泊施設:「喜びの宿 高松」 〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津312 Tel:0279-88-3011
3	3/27	(木)	お洒落な店が並ぶ街を お楽しみください。 名物「峠の釜めし」のご昼食 出発 ホテル 8:30 → 旧軽井沢銀座 9:40 → おぎの屋横川店 11:10 → 松井田妙義IC 12:00 休憩 新倉PA 13:30/13:45 → 羽田空港 14:40/15:35 → JAL461 → 徳島空港 16:50	

注) 上記の行程は、事情により内容を変更する場合があります。

## 遺族会の動き

### 令和六年十月～十二月実施行事

(十月)

6日～7日 日遺中国四国ブロック会  
 議(高知市)

(十一月)

2日 例大祭(護国神社)  
 9日 正副会長会、記念館企画運営委員  
 員会(護国神社)  
 9日 語り部事業(戦没者記念館)  
 13日～14日 英霊にこたえる会中国四  
 国ブロック会議(山口市)  
 23日～24日 沖繩「徳島の塔」慰霊巡  
 拝(糸満市ほか)

(十二月)

10日 全国戦没者遺族大会(自民党本  
 部ほか)  
 11日～12日 日遺女性部結成七十周年  
 記念行事(九段会館テラス)  
 21日 青年部「平和の語り部研修会」  
 (ザ・グラントパレス)  
 27日 戦没者記念館臨時休館(清掃の  
 ため)

### 令和七年一月～三月行事予定

(一月)

11日 正副会長会(ザ・グラントパレス)  
 11日 語り部事業(戦没者記念館)  
 26日 日遺青年部長会議(九段会館テラ  
 ス)

(二月)

28日 日遺事務局長会議(九段会館テラ  
 ス)  
 29日 日遺女性部長会議(九段会館テラ  
 ス)  
 1日～28日 第18回特別企画展(戦没者  
 記念館)

(三月)

8日 正副会長会、記念館企画運営委員  
 会(護国神社)  
 8日 語り部事業(戦没者記念館)  
 23日 理事会・記念館奉賛会総会(護国  
 神社)  
 25日～27日 春の靖国神社参拝団・千羽  
 づる奉納旅行(東京都・群馬県)

## 訃報

徳島県遺族会名誉会長 増矢 稔 様(八十四歳)が令和六年十二  
 月一日にご逝去されました。

増矢名誉会長におかれては、平成元年三月から令和三年六月までの  
 長きにわたり、徳島県遺族会会長として「英霊の顕彰」、「遺族の処  
 遇改善」をはじめ、平成十五年の徳島県護国神社の移転遷座、平成  
 二十六年の徳島県戦没者記念館の開館など、本会の発展と事業の推進  
 に多大な貢献をされました。  
 心よりご冥福をお祈り申し上げます。